

## 「ヤコブの逃亡」

2021年03月17日

ところが、上の息子エサウのこの言葉が母リベカに伝わると、彼女は人をやり、下の息子のヤコブを呼んで言った。「兄さんのエサウはお前を殺して恨みを晴らそうとしています。さあ息子よ、私の言うことをよく聞きなさい。すぐハランにいる私の兄ラバンのもとへ逃げて行きなさい。しばらくの間、兄さんの憤りが収まるまでそこでラバンと一緒に過ごしなさい。」(創世記 27 章 42 節～44 節)

兄エサウは、弟ヤコブが母リベカと結託して父イサクを騙し、父からの祝福を奪われたことを知った。以前、ヤコブの策略によって、長子の権利を赤いレンズ豆の煮物で、売り渡した。エサウは、ヤコブに対し怒り心頭である。彼は心の中で、「父の喪の日もそう遠くない。その時には、弟のヤコブを殺してしまおう」と固く決めた。「ところが、上の息子エサウのこの言葉が母リベカに伝わると、彼女は人をやり、下の息子のヤコブを呼んで言った。『兄さんのエサウはお前を殺して恨みを晴らそうとしています。さあ息子よ、私の言うことをよく聞きなさい。すぐハランにいる私の兄ラバンのもとへ逃げて行きなさい。しばらくの間、兄さんの憤りが収まるまでそこでラバンと一緒に過ごしなさい。』」リベカは、愛するヤコブを救うために、彼女の故郷ハランにいる兄のラバンの所に逃れて行きなさいと勧める。エサウの怒りが収まるまで、ラバンと一緒に過ごし、怒りが収まったなら、人をやって、ヤコブを連れ戻す。夫イサクの死を迎える日も近い。その日に、ヤコブが殺されると、一日に二人を失うことになる。リベカは、ヤコブに逃亡を必死に促す。

彼女は夫イサクに、エサウのヘト人の二人の妻のことで、生きているのが嫌になったと苦情を告げる。姑と嫁の間で、生き方、価値観の相違が出たのであろう。ヤコブが同じヘト人の娘を妻に迎えたなら、どうやって生きてゆけばいいのでしょうか。彼女は、夫を騙したことは一言も言わず、ヤコブにヘト人から妻を迎えることがないように訴え、婉曲に、ヤコブを自分の故郷に行かせ、そこの娘を妻に持たせましょうと勧めている。

人のいいイサクは妻の言い分を聞き、ヤコブに言った。「お前はカナンの娘を妻としてはならない。パダン・アラムに向かい、お前の母の父ベトエルの家に行って、そこで母の兄ラバンの娘を妻としなさい。全能の神がお前を祝福して、子孫に恵まれる者とし、その数を増やされるように。そして、お前は多くの民の集まりとなるように。また、神がアブラハムの祝福をお前とお前の子孫に与えてくださるように。それは、神がアブラハムに与えた地、お前が身を寄せているこの地を、お前が受け継ぐためである。」イサクはヤコブを祝福して送り出した。リベカのヤコブを逃亡させる手だては成功した。

エサウは、父イサクがヤコブを祝福し、母リベカの故郷パダン・アラムに行かせ、リベカの兄ラバンの娘を妻にしなさいと命じたことを知った。また、エサウがカナンのヘト人の娘たちを妻にしたことが、イサクの気に入らないということも知った。そこで、エサウは、アブラハムが女奴隷ハガルに産ませたイシュマエルの所に行って、イシュマエルの娘マハラトを妻に迎えた。親戚の娘を妻にし、父のご機嫌を取るためであるが、彼は三人の妻を持つことになった。思慮がなく、周りの状況によって衝動的に行動する人であった。

リベカは夫を騙した。また、エサウがヤコブを殺害しないように、ヤコブを逃れさせようと、知恵を尽くして画策している。彼女は、「兄は弟に仕える」という神の言葉に従い、次男ヤコブに神の祝福が与えられるために、全ての言動をその信仰で貫いている。